

学習サイクルの確立に向けて

5月末までの臨時休業の分を何とか取り戻そうと、本校だけでなく多くの学校で、例年よりもハイスピードで授業が進められている傾向があります。とは言っても、「例年より」という感覚は、指導する側＝教師にしかないのかもしれませんが。

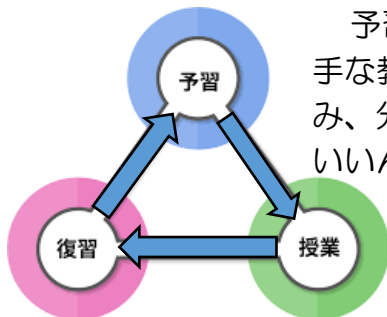
1年生だったら「中学校の授業ってこうなんだ。」とか、2年生なら「やっぱり、中学校も2年目になるとやることが増えるんだなー。」とか、3年生なら「今年は受験の年だから、その準備のための時間も後からほしくなるんだろうな。」など、自分の成長に応じた捉え方や感覚で今年度の授業や学校生活を送っている生徒が多いかもしれません。（ということは、今年は気忙しいと感じているのは私たち教員だけなのかも・・・）

と言った現状の中で、今この「実りの2学期」を本当に実り多いものにするためには、一人一人の学習を軌道に乗せることが大切です。効果的な学習方法について考えてみたいと思います。



「予習・授業・復習」の流れをしっかりと確立する

予習をすると、授業の理解が進みます。特に苦手な教科の教科書を予習で5～10分くらいで読み、分からないところに印をつける程度の内容でいいんです。気軽に、授業のある前日にやってみましょう。この段階で完全に理解する必要はなく、「ここが分からない。」「この部分が



難しいかも・・・」という準備状態をつくるのが大切です。その課題意識があれば「授業をしっかりと聞こう。」という気持ちで授業に臨めます。

学習した内容をことばでまとめる・説明する

授業では、学んだ内容や自分の意見などをアウトプット【表現】することで理解が促され、記憶の定着につながります。常に、「自分のことばで説明できるかどうか」を考えると、自分の理解の程度をモニタリングすることができます。



間違った原因やそこから分かったことをメモする

復習では、授業で学んだ部分の問題等を解いて採点するだけではなく、間違った原因や、その間違いから分かったこと。気づいたことを必ずメモするようにしましょう。同じ間違いを繰り返さないように、自分の間違いのパターンが分かったり、間違った理解を修正したりすることができます。

「解き直し」を大切に、実行する

間違った問題に必ず印をつけ、必ずもう一度、解き直しをします。決して「やりっ放し」にしないことが大切です。受験生なら、解けなかった問題を整理した「解き直しノート」を作ってみてください。問題と正しい答え、そして自分が解けなかった理由や原因などをメモしてまとめておくことが効果的です。

自分自身を向上させるのは、できたかできなかったかということだけでなく、できなかった理由を突き止め、同じ問題を2度間違わないようにするための学習を工夫することです。

スポーツや楽器の演奏も同じですね。できなかったところを何度も何度も練習してできるようになることが大切です。自分自身の足跡・失敗としっかりと向き合い、同じ失敗をしないように取り組むことが向上・成長のための大切な取り組みです。